

表象のポリティクス： 他者と自己

総合文化研究 11 号
目次

	書評
2 巻頭言	
6 森と草原の思想 ——ユーラシア主義再考 渡辺雅司	135 中山和芳著 『ミカドの外交儀礼——明治天皇の時代』 渡辺雅司
31 認知不能の恐怖 (Fear of Agnosia) ——人種記号 (レイス・マーカ) と トニ・モリスンの「レシタティブ」 荒このみ	138 オム・ソンバット著／岡田知子訳 『地獄の1366日——ポル・ポト政権下での真実』 川口健一
61 脱地域化するムスリム・アイデンティティ ——イギリスの「移民」ムスリムの例から—— 八木久美子	143 八木久美子著 『アラブ・イスラム世界における他者像の変遷』 柳原孝敦
76 異文化受容のポリティクス ——日本近代化のプリズムから見たドイツ演劇受容 谷川道子	146 プラープダー・ユン著／宇戸清治訳 『鏡の中を数える』 川島郁夫
92 白い想像力と精神分析のダイアレク ティックス ——レズリー・F・フィードラーの『アメリカ文学に おける愛と死』トニ・モリスンの『プレイング・イン・ ザ・ダーク：白さと想像力』における意識と無意識 加藤雄二	148 荒このみ著 『歌姫あるいは闘士 ジョセフィン・ベイカー』 西永良成
寄稿	151 亀山郁夫著 『ドストエフスキー——謎とちから』 鈴木聡
110 〈天皇〉のいない世界 ——『地の果て 至上の時』の象徴界 柴田勝二	
報告	-- 総合文化研究所 2007 年度活動報告 編集後記
128 ルネ・シャールとレジスタンス 西永良成	